

萬葉集に、池を海とも海原ともよめり、湖を水海といふが如し、

〔倭訓栞前編二〕あま。海をいふは、日本紀萬葉集に見ゆ、あをみの轉語にして、蒼海の義成べし、

〔書言字考節用集乾一〕海原ウミハラ字ウミハラ俗

〔倭訓栞中編三〕うなばら。海をよみ、海原と神代紀に見えたり、原は廣平を稱す、

〔古事記上〕此時伊邪那岐命、中詔建速須佐之男命、汝命者所知海原矣、事依也、

〔萬葉集雜歌五〕最後追加〇詠嶺中二首〇一首略

宇奈波良能意吉由久布禰遠可弊禮等加比禮布良斯家武麻都良佐欲比賣

〔萬葉集東歌十四〕宇奈波良乃根夜波良古須氣安麻多阿禮婆伎美波和須良酒和禮和須流禮夜

〔古事記傳七〕右の如く萬葉に、波は皆清音の假字をのみ書れば清てよむべし、つねに濁るはい

か、

〔萬葉集雜歌一〕天皇〇舒登香具山望國之時御製歌

山常庭村山有等取與呂布天乃香具山騰立國見乎爲者國原波煙立籠海原波加萬目立多都怜何

國曾蜻島八間跡能國者

〔萬葉集略解一〕海原は、香山の麓埴安の池、いと廣くみゆるを、海原とよみ給へる也、卷三、獵路池

にて、人万呂おほきみは神にしませばま木のたつあら山中に海をなすかも、同卷香山の歌に、

池波さわぎおきべにはかもめよばひとよめり、

〔書言字考節用集乾二〕滄海ウミノナミ一名ウミノナミ東海 蒼溟ウミノナミ海

〔倭訓栞前編二〕あをうなばら。萬葉にみゆ、祝詞に、青海原と見ゆ、神代紀に、滄溟、また滄海之原を

よめり、倭名抄、三河郡碧海を、あをみとよめり、されば祝詞などに、青海原を、あをみはらとよめる

を是とすべし、